

「つながり」の多様性

私たちの人生は、さまざまな「つながり」の連続です。

家族が同じ空間ですっと一緒に過ごす時期もあれば、互いの気配を感じながら思い思いに過ごす時期もあります。

それは日常も同じこと。今日は久しぶりに友人を迎えるから大人だけでゆったり、季節の行事だからお客様も子どもたちも一緒に賑やかに……など、常に目的に合わせて家族や夫婦のつながり方を選んでいくといえるでしょう。

じつはその時々、心地良く過ごせるかどうかは、空間の力が大きいもの。どうつながりたいかによって、ふさわしい空間は異なるからです。

そこで今号では、集合住宅における「可変性」について採り上げました。大がかりなりフォームを計画しなくても、

建築的な工夫によって家族はここまで多様なつながり方を持つことができます。

「グランドメゾン千里中央東丘」の洋室。『可動間仕切り収納』によって、手前の空間をきょうだいふたりの学習室、奥を共有のベッドルームとしてゆるやかに仕切っています。いずれ子どもたちが成長すればクローゼットを動かし、2つの個室に変更することができます。

家族も暮らしも変化する

今日の座談会は3人のうちふたりが結婚と出産という、まさに人生の大きな節目を目前にしておられますね。

「偶然とはいえ、今日のテーマにぴったりのメンバーが集まりました(笑)。住まいを考えるきっかけは、やはり結婚やお子さんの誕生が多いから(河崎)」

マンションを検討される方は、そういった先々の変化をどのくらい見通されているのでしょうか。「モデルルームに会場された当初は、お子さんの成長など家族の将来を見渡され、部屋数を優先して検討される方が多いですね。一方、お話を進めていくうちに住み替えやリフォームなども視野に入れられ、部屋数よりも空間の広がり、つまり今の快適さを優先して選ばれる方もいらっしゃいます(神吉)」

「部屋の数を重視されるお客様は、いい、主寝室以外の洋室をいずれ子ども室にと想定されています。ただ、お子さんが幼い間は昼間はほとんどLDKで過ごし、夜は主寝室で、両親と一緒に就寝するスタイルが多いので、個室が本当に必要になるのは何年も先になる場合もありますね(友草)」

「子育てを終えた方は実感としてわかってくると思います。人生の器としての住まい空間を見渡すと、個室としての子ども室が必要な期間ってじつは意外と短いものなんです。しかも子どもの成長は非常に早いですから、その時々で理想の空間は変化します。

いつときも目を離せない乳幼児期は目が届きやすいリビングが主な子育ての場になりますし、児童期に入ると子ども室に学習用のデスクを置いてお母さんとのつながりを感じられる空間であればこそ、安心できるんです。ですがそんな時期が過ぎると自分の部屋で独自の世界を持ち、家外に活動の場を求め始めます。それに伴って親子の距離つながり方も変わるんです。その変化こそ成長の証。とはいえ、子どもがなかなかリビングにやってくる来ないといふと寂しかったりもするんです(河崎)」

家族がつながる装置
子どもの成長に伴って家族のつながり方、ありようもどんどん変化していく。ある程度は工夫し



光や風、そして人の視線も柔らかく通りながら気持ちをつないでくれる簾戸(すだ)。まさに日本独自の仕切り方です。

て住みこなくても、いずれリフォームや住み替えを考えなければならぬタイミングが訪れるわけですね。

「とくにお子さんが独立して個室が空くと、大がかりなリフォームを検討される方が多いです。子育てをするのに便利で快適な空間と夫婦ふたりの暮らしが心地良い空間は、おのずと異なりすから。あるいは結婚生活をマンションでスタートし、子育てを考えて家を建て、そして夫婦がリタイアするとまたマンションに住み替える、近頃はそんなケースも珍しくありません(友草)」

そういったライフステージの変化はもろろんですが、じつは日常でも家族のつながり方というのは常に変化しているんですね。たとえば来客があるとしても家族全員でもてなすわけではなくありません。奥様がLDKでお友だちをもてなす場面でご主人の居場所がなかったりする(笑)。「そう考えると、日本の伝統の住まいはじつに融通性に富んでいました。私は純日本家屋で育ったのですが、人が集まるとなると幾部屋もの建具をさあつと取り払って大広間にするんです。少々人数が増減しようが、いくらでも対応できる子ども心にも、まるで魔法の空間のように見えていました(神吉)」

日本の住まいにはそもそも、襖や障子といった取り外せる「仕切り装置」によって、さまざまなつながり方ができる柔軟性がありますね。「仕切り」といえば隔てるイメージになりますけれども、日本の住文化の場合、壁のように完璧に隔てない。いつもどこかで互いがつながっているよう

融通性に富む、日本の伝統の住まい。その文化は現代ならではの装置で、受け継がれています。(神吉)



な、そんな仕切り方、隔て方です(神吉)

「衝立や簾戸など、まさにそうですよ。ここから先はプライベートな空間ですよ、という暗黙の了解があって、気配はしっかりわかっているんだけれども(笑)、わざわざ訪いを入れてから足を踏み入れる。まさに「礼」の文化です。

襖や障子越しにしっかりと聞こえていても聞こえないふり、わかっているけど気づかないふりができるというのは、とても高度なコミュニケーションテクニックです。相手の意を汲んだり、場の空気を読んだり……(河崎)

「ですから現代の日本の住まいは、建具の種類が非常に多いです。洋の住文化をうまく取り入れながら、なおかつ日本の文化の良いところ、たと

how's connect さまざまな「仕切り」のアイテム

仕切り装置によって、家族や来客とさまざまな「つながり方」ができます。可動装置であれば、マンションでも間取りの変更までできるんです。

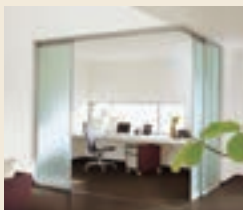
しっかり仕切る

ゆるく仕切る

建具



面でしっかり遮ることも、開放すれば空間をつなげることもできる(引戸)



半透明の(スライディングウォール)。気軽に閉じたり開いたりして、空間をコントロール。



開き戸でも、隣室の気配や陽射しの動きを感じやすい(ガラス戸)。



リビングと和室を仕切る(障子)。開けては、2室が広々ワールームに。



光や風を通しながら空間をゆるく仕切り、つなぐ(格子戸)。

壁



独立性の高い部屋を囲む(壁)。室内窓を設ければ、明るさや気配が伝わります。



リビングとキッチン、ダイニングなど、つながりを重視したい空間に部分的な(隠し壁)。



暮らしに合わせて位置を変更、間取りを変えやすい(可変間仕切壁/積水ハウスオリジナル)。

床



ワールームでも床の(高低差)によって、つながりながらさりげない仕切り感を得られます。



床の(仕上げ)を変えることで、ビジュアル的にも触覚でも、ゆるやかな仕切り感に。

家具



クローゼットを動かすことで間取りを変更できる(可動間仕切収納/積水ハウスオリジナル)。子どもたちが幼い間は広々としたワールームと一緒に、独立心が芽生え始めたら、セミオープンな子ども室に変更。プライバシーが必要になる時期には、独立した個室に変更することができます。



TVボードを兼ねた(書棚)、リビング・ダイニングとDEN(書斎スペース)をゆるやかにコネクタ。



TVボードを兼ねた(書棚)、リビング・ダイニングとDEN(書斎スペース)をゆるやかにコネクタ。



TVボードを兼ねた(書棚)、リビング・ダイニングとDEN(書斎スペース)をゆるやかにコネクタ。

人生の中で、子ども部屋が必要な年月は意外と短いもの。マンションも、変化への対応力が重要ですね。(河崎)



えれば開放しておきやすい引戸の採用も増えましたが、今、最も選択肢が多いんじゃないでしょうか。マンションの和室も独立した部屋ではなく、たとえばリビングの続き間として障子で仕切るスタイルがありますが、2空間でありながら大きな広間としての使い方もできる好例でしょう。住まいの中で、つながり方の多様性が広がっているんです(神吉)



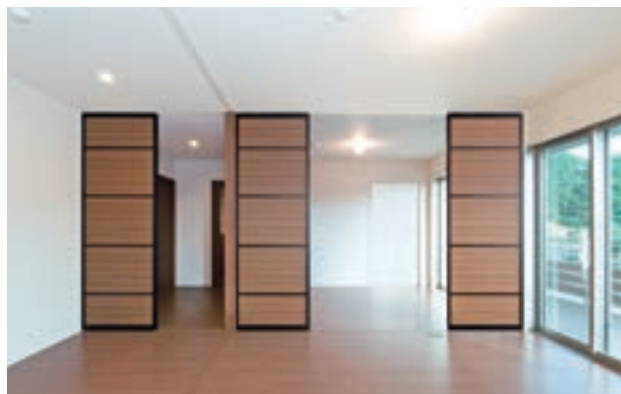
talking member

(左から順に)

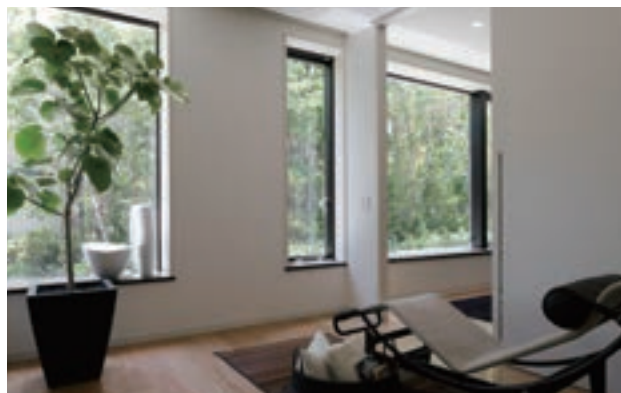
- 河崎由美子: 総合住宅研究所 課長/一級建築士/趣味はスイミング/今秋はフルマラソンに出場、来春は中学生の息子とフランス旅行と、チャレンジ続き?(笑)
- 神吉(かんき)梨紗: 大阪マンション事業部 分譲営業室/一級建築士/趣味はダンス、華道(師範)/今、第一子がお腹の中にいます。子育てのことを考えて、新しい家が検討中です。
- 友草(ともくさ)愛: 大阪マンション事業部 営業推進室/宅地建物取引主任者/趣味は能(金剛流)/結婚を間近に控えているので、休日は新居のインテリアをプランニングしています。



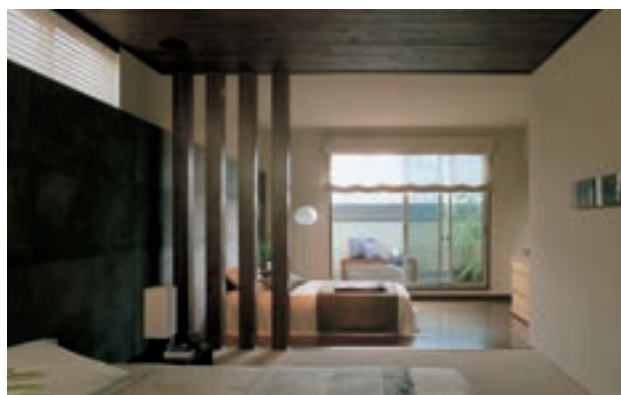
GM熱田の杜(愛知県) / LDに隣接させた、子どものプレイルーム(左奥)と寝室(右奥)。開放しやすい引戸なので、いつも子どもの様子を見ながら家事ができます。



GM高宮テラス(福岡県) / 可動間仕切建具を外せば大きなワンルーム、配置によって1~3LDKまで変更することができる、非常に可変性の高い空間。外した建具はクローゼットの中に収納できる仕組みです。写真はセミオープンに仕切った状態。



GM白金台(東京都) / 大きく開く引戸によって生み出された、くつろぎのスペース。隣りのリビングとは同じ風景でつながりながら、ひとりで過ごす心地良さも引戸の閉め具合で自在にコントロールすることができます。



近頃は別寝室を選ぶご夫婦も増えてきましたが、たとえば同じ空間をうまく仕切るという方法も。床の高さと仕上げの違い、そして列柱によって、ほどよい距離感でつながる空間になるんです。

case study

家族の変化に合わせて、間取りをアレンジ!

GM千里中央東丘の2つの洋室は、可動間仕切収納によって間取りを自在に変更できるようになっています。壁で完全に仕切られた個室と違って、セミオープンなつながり方も可能。家族の人数の変化にも対応しやすいんです。



■可動間仕切収納

間仕切りとして利用できるクローゼット。ハンドル操作で出し入れできるキャスターを内蔵しているため、ご家族で手軽に移動や据え付けが行なえます。



家族のスタイルに合わせて、住みこなしていただけるかどうか…。 住まい選びに加えていただきたい、価値基準です。(友草)

家族で容易に移動できます。間取りを変更する日は家族のイベントとして、子どもたちも参加させるといってご家族もおられます(「神吉」)
「自分の部屋にかかわることで、生まれ育ったわが家への愛着も育まれやすくなりますよね。子どもたちにとってわが家は家族そのものですから、家族の絆を深めることにもなるのではないのでしょうか(「友草」)

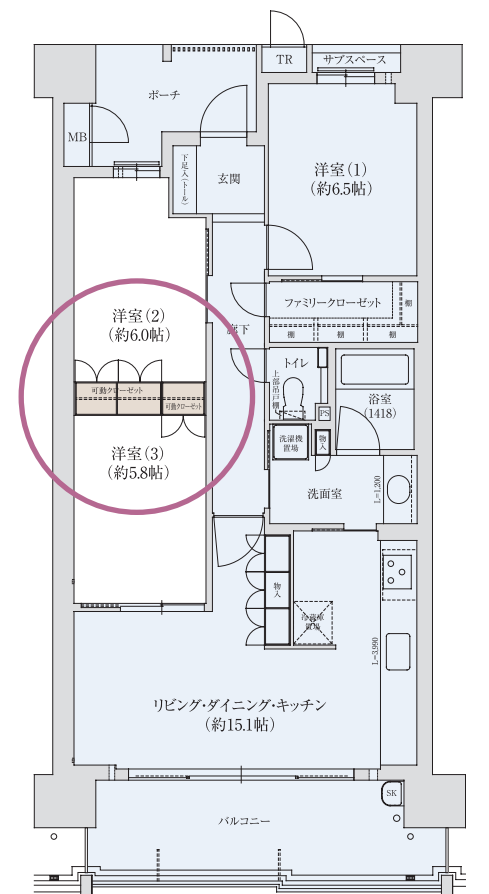
間取りが変更できるとあれば、子どもが独立した後の部屋の活用度も広がりそうです。「これからは思う存分、趣味を楽しみたいと考えられたらクローゼットの位置を変えて寝室+趣味室、あるいは書斎にするのもおすすめです。

シニア世代になるとご夫婦がそれぞれの趣味をお持ちです。夫婦別寝室とされるケースも多く、2室の広さのバランスを自由に調整できる可動間仕切収納は大変重宝します。個室であれば遠慮なく趣味に没頭できますし、リビングにいろいろな物を持ち込まなくて済みます。共有

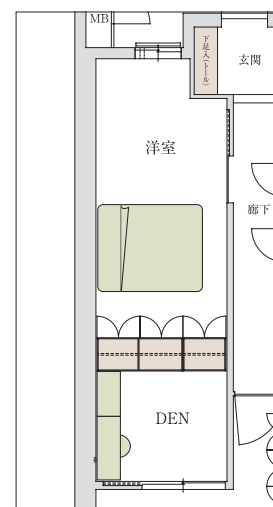
の場としての美しさを保ちやすいですね。それにお互いが個室で充実した時間を持つていると、リビングで「一緒に過ごすときが新鮮(笑)、会話が弾むとおっしゃるご夫婦が多いんです(「神吉」)

「可変性」という価値基準

これからはマンション選びもLDK…:…つまり「何部屋あるか」ではなく、空間がどのくらい暮らして合わせて変化できるかという「融通性」「可変性」が価値基準になりそうです。

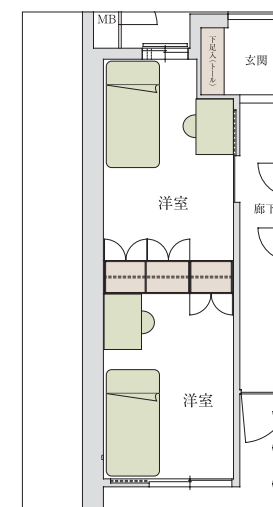


stage 3 独立後 ← stage 2 思春期以降 ← stage 1 学童期



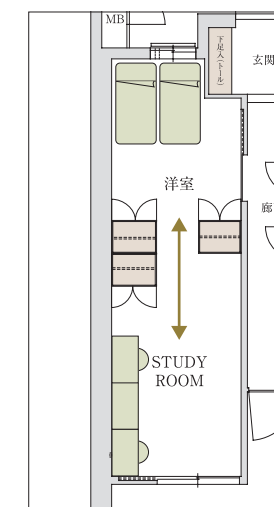
■洋室&DEN

子どもたちが独立すれば、もうひとつのゆとりの寝室と趣味のDENなど、ライフスタイルにフィットした使い方ができます。



■洋室&洋室

成長すれば、それぞれ独立した子どものゆとりの寝室と趣味のクローゼットで仕切るので、家具スペースも少なくて済みます。



■寝室&学習室

幼い間は一緒に眠って、並んで勉強。きょうだいの絆を育みやすいレイアウトです。

間取りを変化させる?

「ランドメゾン(以下、GM)ではさらに先に進んで、間取りまで変化させることができるんですよ(「友草」)
リフォームをせずに間取りを変えられるのですか?」

「そうです。たとえば『可変間仕切壁』や『可動間仕切収納』は設置の自由度が高いので、家族の成長に合わせて半独立コーナーや目隠し、家事動線などを変更することができます(「神吉」)
「とくに子ども室に有効なのが、『可動間仕切収納』。お子さんが幼い間は2室を隔てずに広いプレイルームとして使い、成長に合わせて寝室と学習室に分けることができます。もちろん、きょうだいそれぞれの個室にもできますが、学童期までであればクローゼットを動かしてセミオープンの2室構成にすることもできます(「友草」)
なるほど、半分だけ目隠しされた2室なら書棚なども共有しやすいですね。」

「セミオープンの空間だからこそ、勉強を教えたりもったり好きなスポーツの話をしたりなど、コミュニケーションの機会が自然に増えるんです。長い人生から見ればきょうだいが一緒に過ごせる時間もあつという間ですから、多感な時期に同じ空間で過ごす体験は生涯を通じて大切な宝物にもなるのではないのでしょうか(「河崎」)

「GM千里中央東丘のモデルルームの洋室も、その『可動間仕切収納』で2室に仕切られた子ども室の提案になっています。子どもたちが成長してそれぞれの個室が必要な時期になれば、この収納を動かせば良いわけですね。そうしたいときは、専門の工事業者さんをお呼びですか?」
「いえ、ご家族自身で動かすことができますよ。設置時は天井と床につばね形で固定されているのですが、収納下部にキャスターが内蔵されているのでハンドル操作でキャスターを出せば、こ



譲渡や転売を考えられる場合でも、可変性はこれからです。重要なポイントになってくるでしょう。新しい別の家族にとっても魅力や価値が高ければ、余分な資源を使わずに住み継いでいけるのですから(「友草」)

「そして何より、家族がいろんなつながり方ができる家は、いい家なのだと思います。親子も夫婦も、一緒に過ごしていてもひとりでも心地良い…:『可変性』を備えた住まいは、そんな悠々としたわが家であり続けることではないでしょうか。」